

# 鎌倉市スマートシティの進め方について

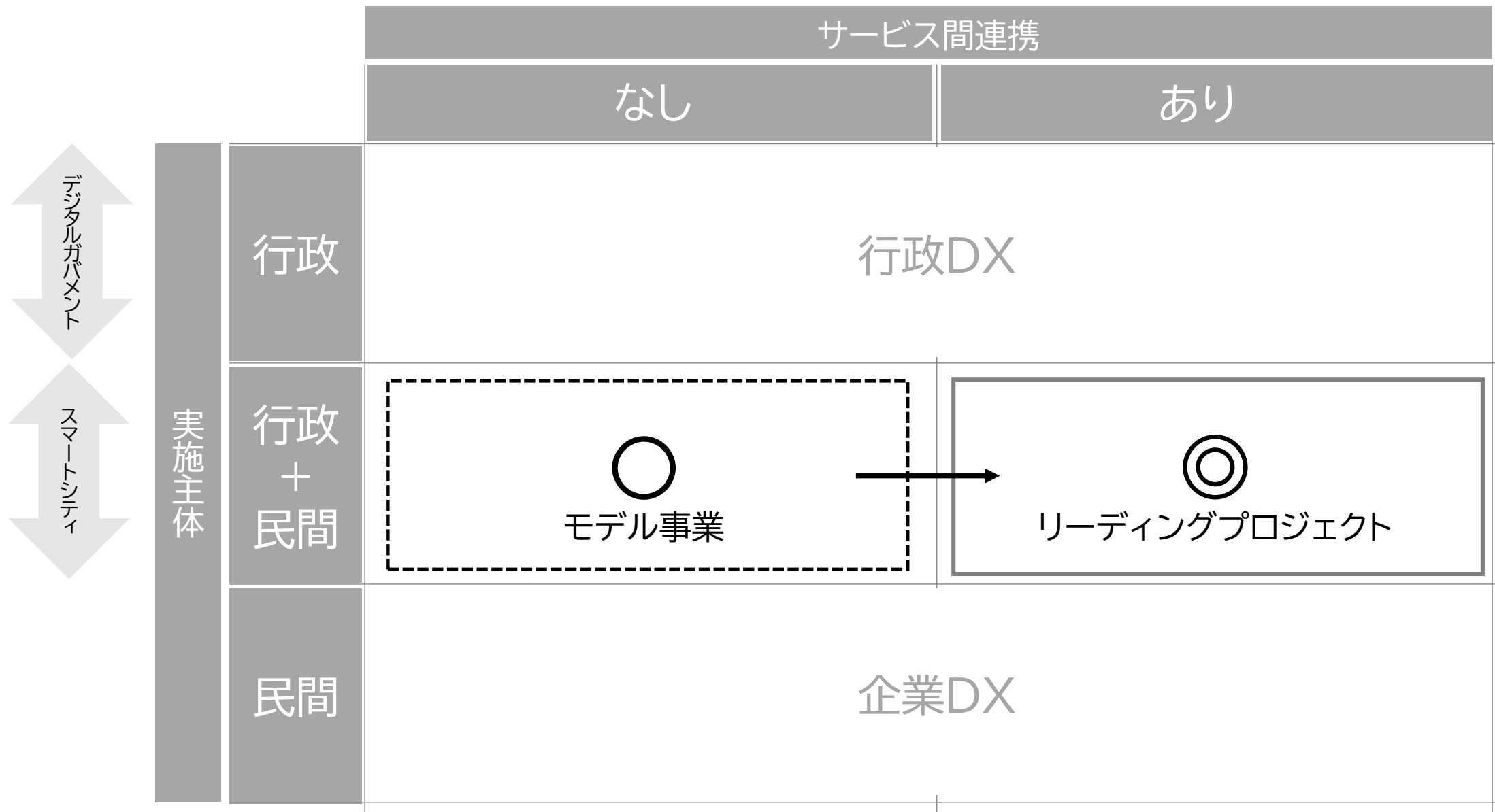
令和4年(2022年)5月  
鎌倉市スマートシティ庁内検討委員会  
事務局 鎌倉市共生共創部政策創造課

# 鎌倉市スマートシティの進め方について

---

1	スマートシティ実装に向けて	03~05
2	運営体制	06
3	リーディングプロジェクトの分野選定	07
4	ステークホルダー間の合意形成	08~09
5	ロジックモデル	10~12
6	鎌倉市スマートシティのマイルストーン	13
7	「未来を先取りしたまちづくり」との関係	14

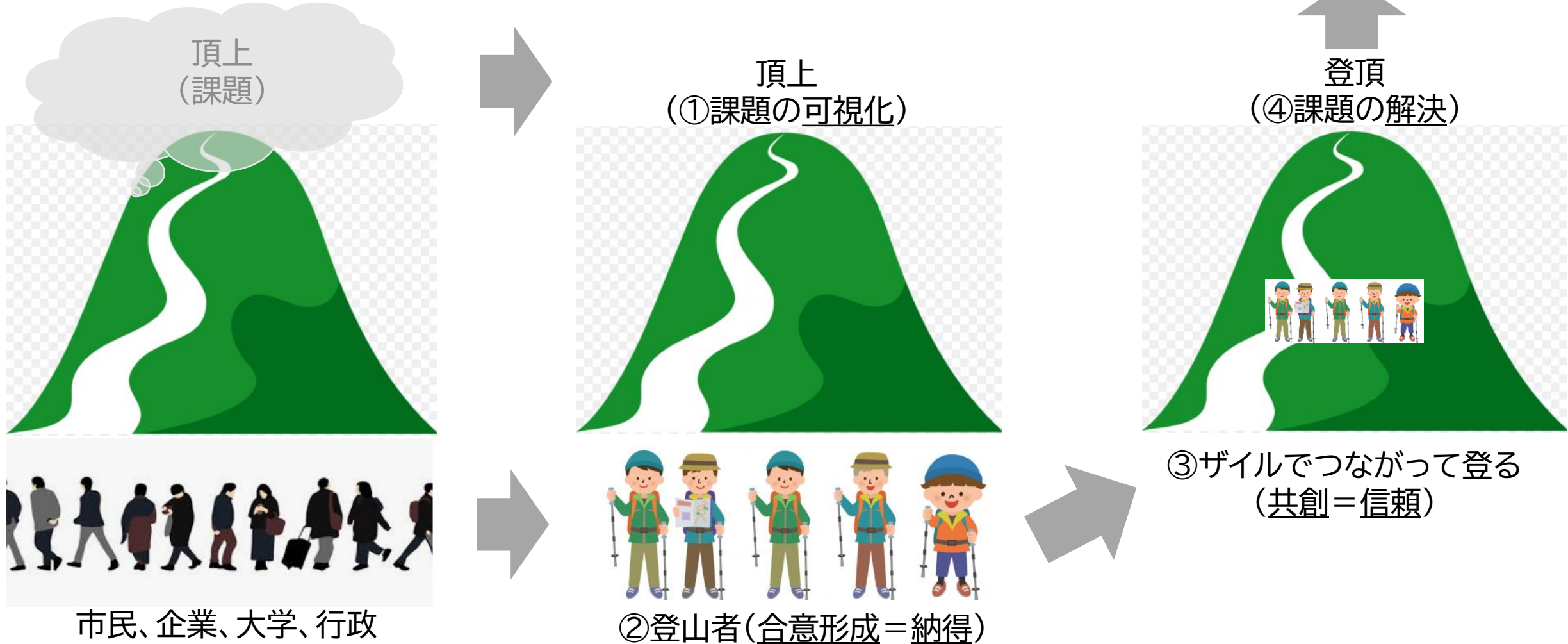
# 1-1 スマートシティ実装に向けて



# 1-2 スマートシティ実装に向けて

## 【ポイント】

- ・要は、スマートシティとは、これまで解決できなかった課題を解決していくための新たな手法。
- ・その成否は、設定した課題の内容と可視化の方法によって決まる。
- ・解決困難な共通課題ほど、みんなで協力して解決していこうという意識や行動が生まれるもの。



## 1-3 スマートシティ実装に向けて

### (1) 目的とゴール(KPI)の設定

- ▶ デジタル田園都市国家構想の方針と同じく、市民のWell-Beingを最終ゴール(インパクト)と位置付ける。
- ▶ 行政と民間の協業を「アクティビティ(活動)ベース」でなく「アウトカム(成果)ベース」で構築する。

### (2) サービス間連携の実現(データ連携基盤)

- ▶ ステークホルダー(産官学民)間の合意形成を図り、複数事業者の異なるサービスを束ねた高付加価値のサービス実装を実現する。

### (3) データによる効果検証(PDCA)とゴール(KPI)の精緻化

- ▶ EBPMの推進による資源の集中投下、成果連携型民間委託(SIB等)導入など 人・モノ・カネの余力を再投資(まちづくり)に回し、持続可能な都市経営を実現する。

## 2 運営体制

### 組織

#### 全体戦略

スマートシティ庁内検討委員会（運営：鎌倉市）  
【会長】比留間副市長【副会長】千田副市長  
【構成員（常時）】庁内各部長  
【構成員（その他）】スマートシティ推進参与（民間有識者3名常設）  
【オブザーバー】スマートシティ推進アドバイザー（民間有識者を都度採用）  
(1)スマートシティ年間計画の策定・運営  
(2)実証事業の公募・採択  
(3)勉強会の開催（データ連携基盤、LWCIなど）

#### 事業企画 （官民連携）

スマートシティ庁内検討委員会個別部会（運営：鎌倉市）  
【構成員】庁内関係所管課長  
(1)目的（課題）及びゴール（成果）の企画  
(2)ユースケースの検討  
(3)必要なデータの特定及び提供・交換可能な行政データの検討



スマートシティ官民研究会事業化分科会（運営：事業者主導）  
【構成員】事業者コンソーシアム（パートナー会員が提案）  
(1)ユースケースの検討・提案  
(2)必要なデータの特定及び提供・交換可能なデータの検討・提案  
(3)データ連携基盤の整備に対するサービス視点での意見

#### 事業参加

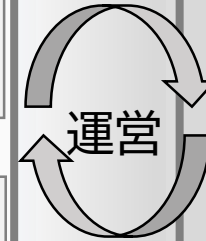
スマートシティ官民研究会（運営：鎌倉市）  
【構成員】パートナー会員、一般会員  
(1)全体会の開催（会員間の連携、情報共有など）  
(2)実証事業の提案・実施（パートナー会員限定）  
(3)勉強会の開催（データ連携基盤、LWCIなど）

### 基盤（鎌倉市）

**合意形成プラットフォーム**  
・庁内及び市民向けのデジタルプラットフォームの導入による市民等の参画拡大  
・目的及びゴールの設定、実証事業等の評価など、アウトカムベースの取組によるKPIの明確化、合意形成、社会実装の推進

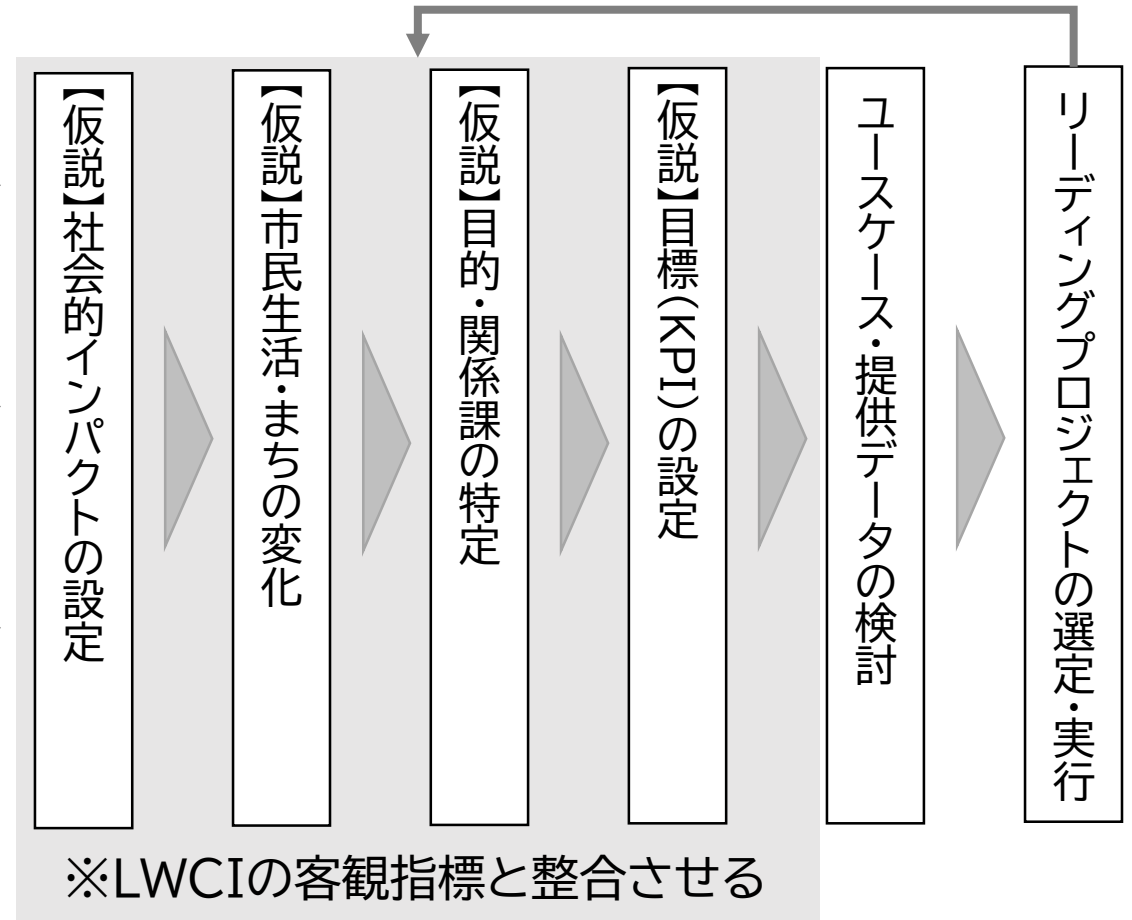
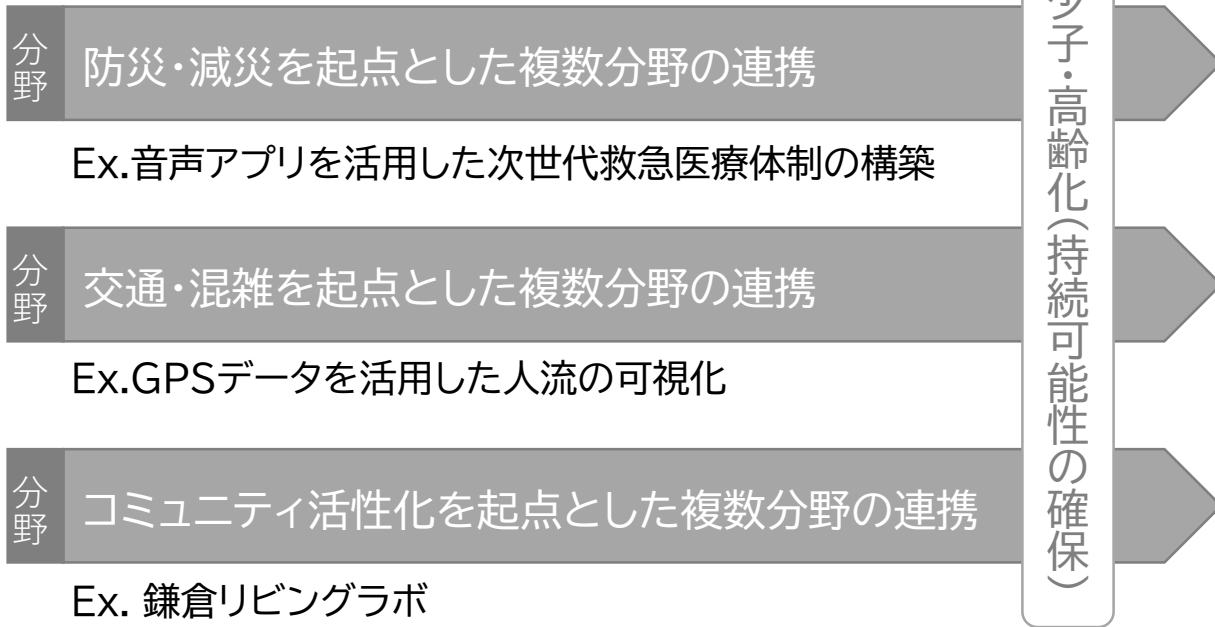
**データ連携基盤**  
・高付加価値のサービス創出につながるサービス間連携及び分野間連携の推進  
・神奈川県データ統合連携基盤との接続による県域等での都市間連携の推進  
・データによる効果検証、KPIの精緻化による社会的インパクト投資及びSIBなどの民間資金活用の推進

**人材育成・起業支援**  
・鎌倉リビングラボとの連携による市民目線での課題解決を意識した取組の推進  
・慶應義塾大学や横浜市立大学と連携した市民参加のアイデアソン、FabCityの推進  
・HATSU鎌倉（県）と連携した市民の起業支援



### 3 リーディングプロジェクトの分野選定

※LWCIの主観指標と整合させる

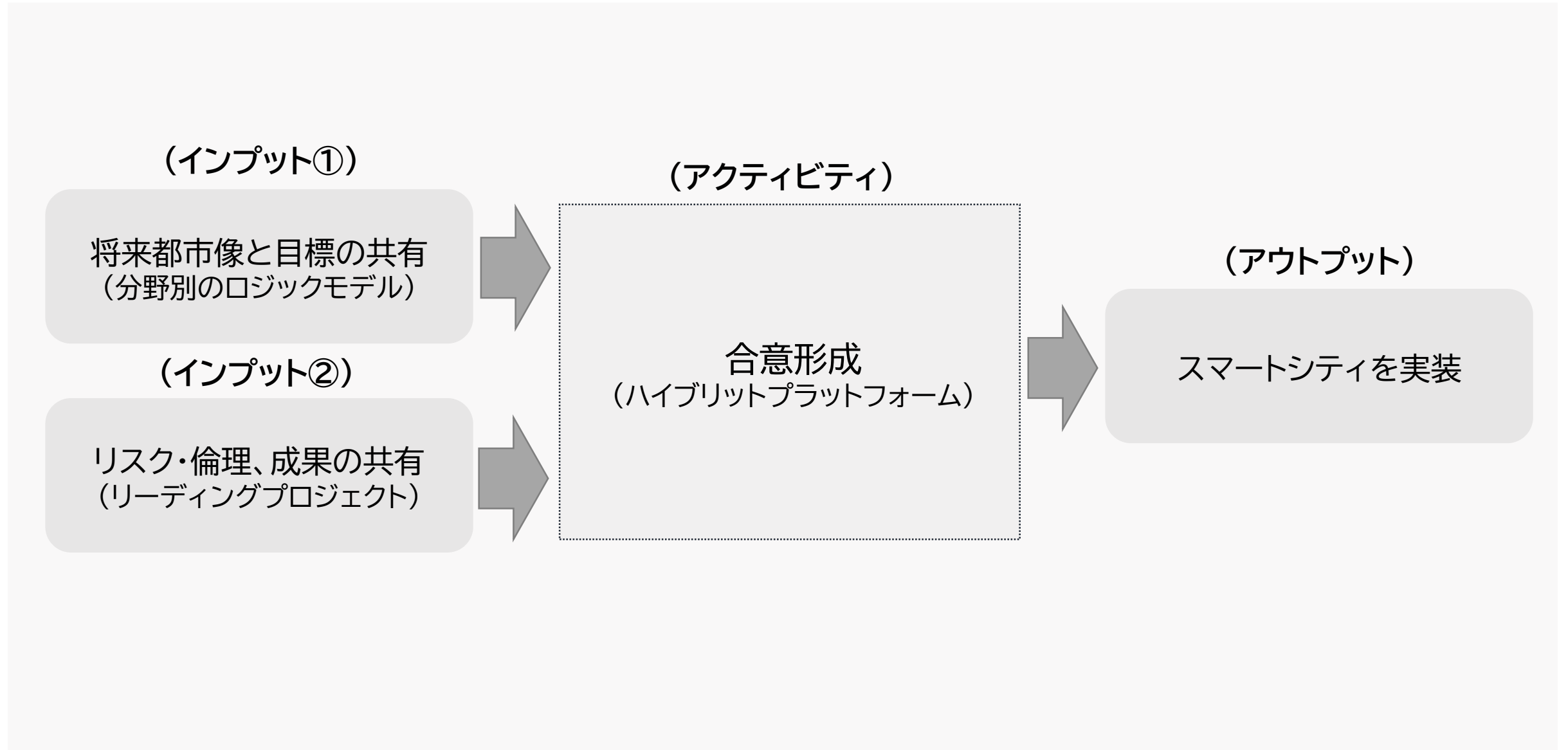


※LWCI・・・住みやすさと幸福度の指標

#### 【分野の選定理由】

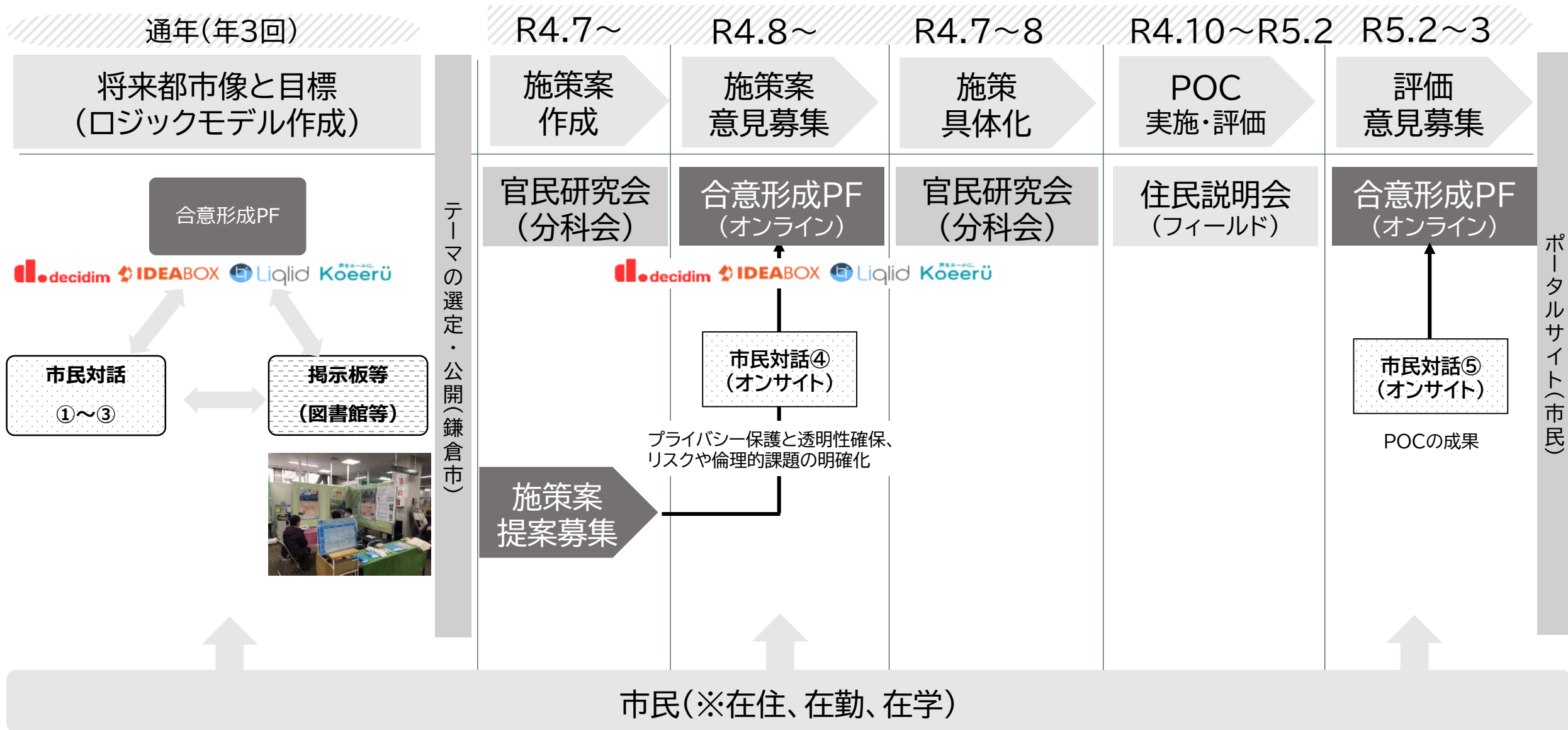
- まずは、鎌倉市が抱える3つの課題からスタート。スマートシティ構想でオーソライズ。
- 既存のコンソーシアム内に、地元事業者(市を含む)が含まれており、課題解決に前向きな事業者間の連携関係が確認できること。
- 既に各事業者がサイロ型のデジタルサービスを開発・提供しており、これらのサービスをデータでつなぐことで、課題解決に向けた高い相乗効果が期待できること。
- 行政及び民間事業者が、提供・交換可能なデータを蓄積していること。

## 4 ステークホルダー間の合意形成

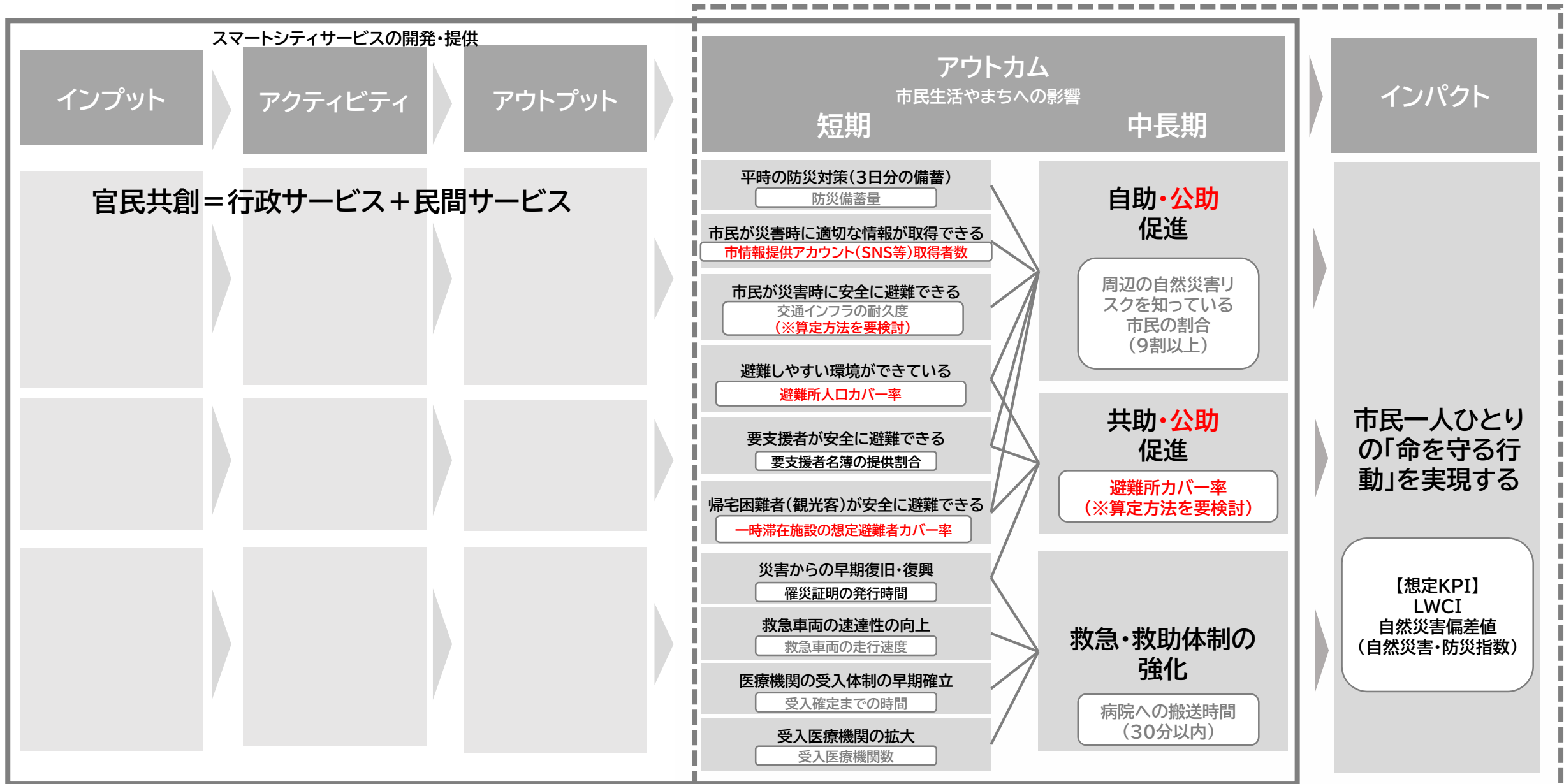




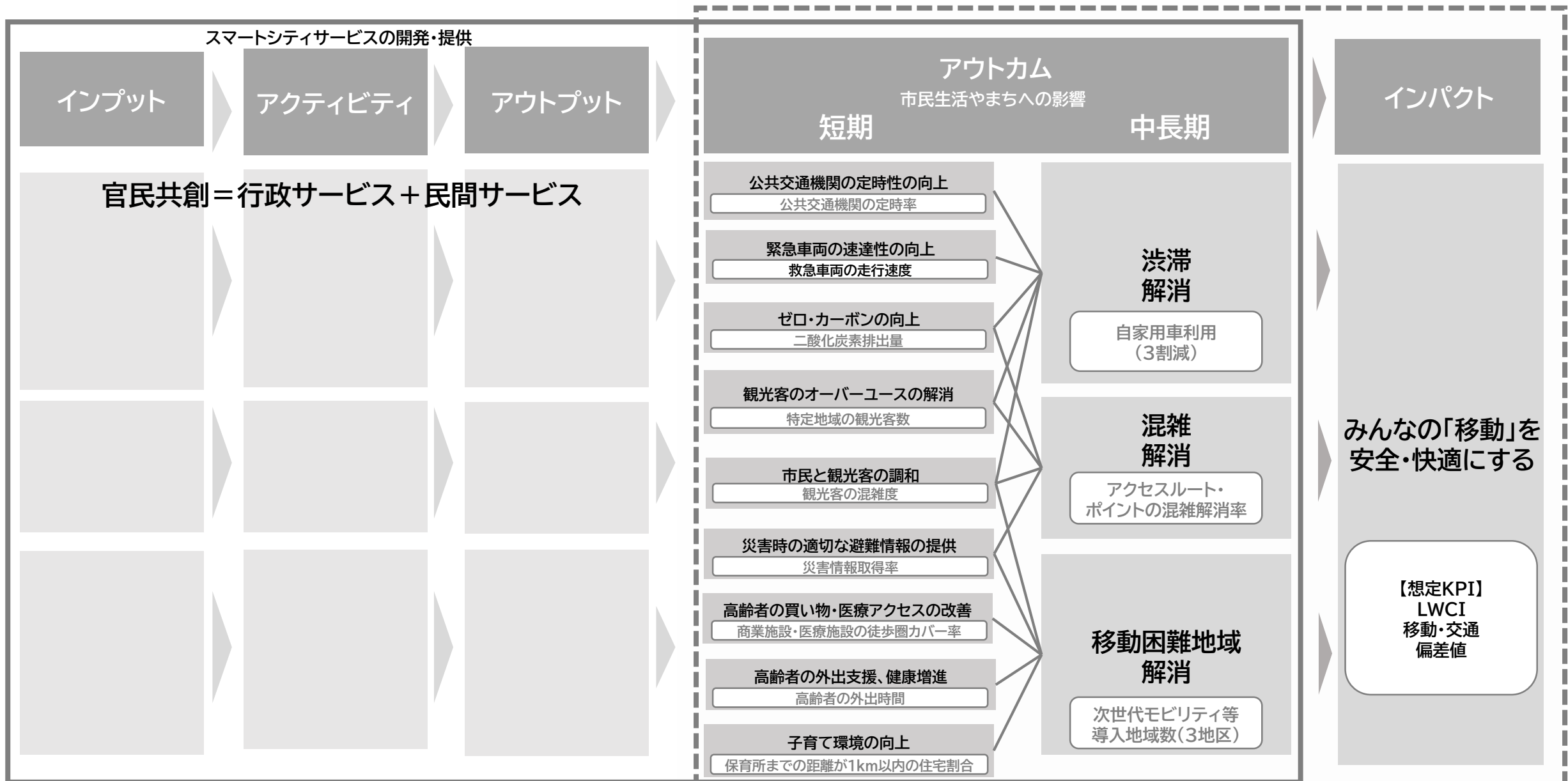
# 4 ステークホルダー間の合意形成



# 5-1 防災・減災分野のロジックモデル



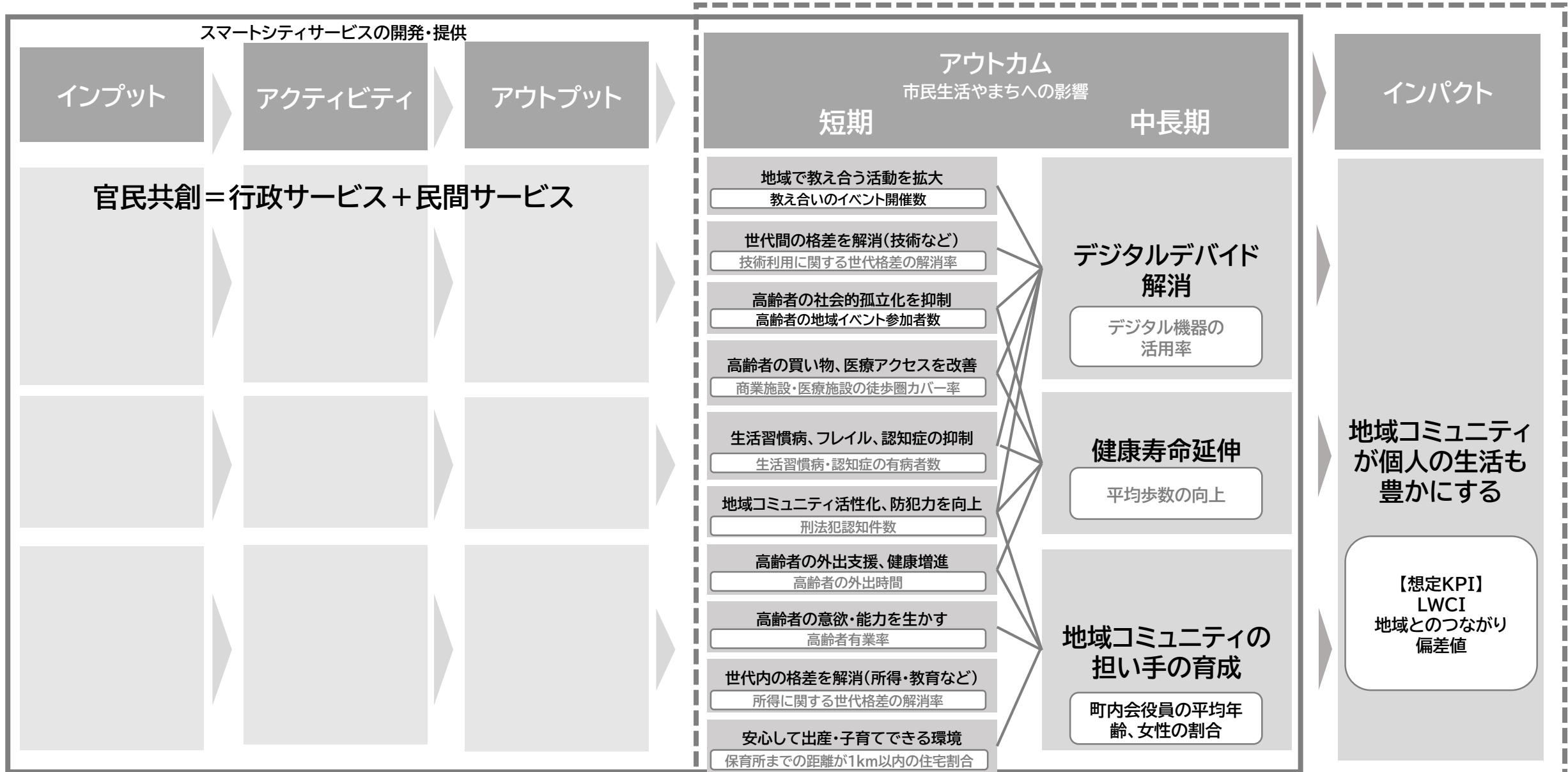
## 5-2 交通・混雑分野のロジックモデル



実線:官民研究会で検討

点線:市で仮説を設定

# 5-3 コミュニティ活性化のロジックモデル



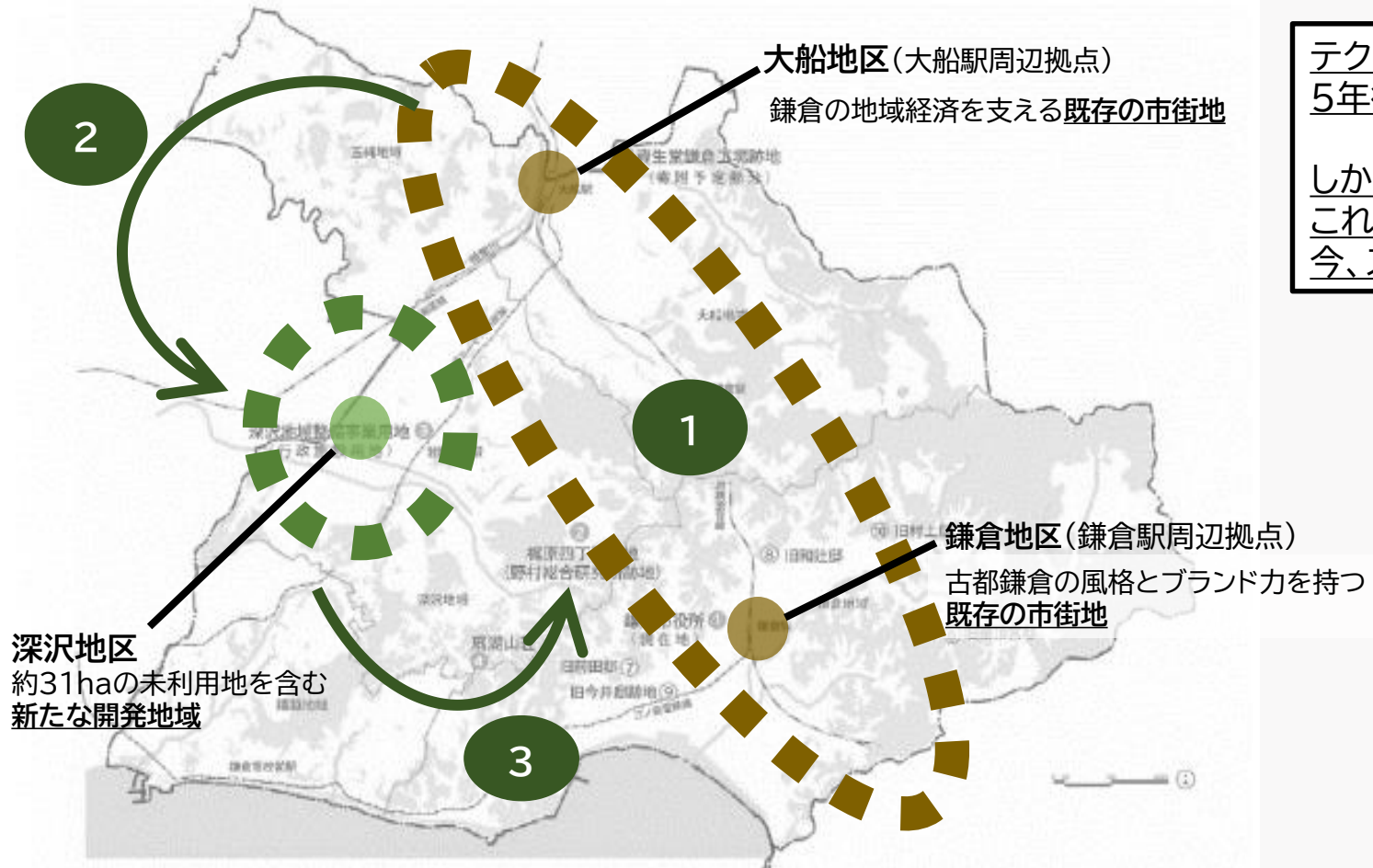
実線:官民研究会で検討

点線:市で仮説を設定

## 6 鎌倉市スマートシティのマイルストーン(令和4年度～)



# 7 「未来を先取りしたまちづくり」との関係



テクノロジーの進歩は日進月歩。  
5年後、10年後の技術は予想もつきません。

しかし、その実装方法は変わりません。  
これを確立し未来のまちづくりへ引き継ぐのも  
今、スマートシティに取り組む大きなミッションです。

スマートシティ  
=今ある技術を実装していく  
「まちづくり」

スーパーシティ  
=未来志向の技術を実装していく  
「まちづくり」